平成２９・３０年度特別支援教育体制推進事業

特別支援教育推進モデル事業
発達障害等支援拠点校研究委嘱

西尾市　指導事例集

平成３１年３月

愛知県教育委員会

はじめに

平成19年４月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、全ての学校において、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくこととなり、各学校においては、校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名、個別の教育支援計画の作成・活用等、特別支援教育を推進するための体制整備が充実してきました。

なかでも、子どもたち一人一人のニーズに応じた支援・指導の充実に向けた、教職員の特別支援教育に関する専門性を高めるための取組が着実に進められています。

本県においても、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育的支援を行う体制整備のため、平成17年度から幼児児童生徒に対する適切な指導及び、支援の充実を図ることを目的とした特別支援教育体制推進事業を実施するとともに、平成26年３月に策定した「愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン）」を基本計画とした校種ごとの課題解決に向けた取組を進めてきました。

近年、小・中学校においても、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な支援を必要とする児童生徒は増加しており、通級による指導へのニーズの高まりも大きくなる一方、通級による指導を充実させるだけでなく、通級による指導担当教員と通常の学級担任が連携し、通常の学級における支援・指導を充実させていくことが課題であります。

こうしたことから、本県では、平成27・28年度の２年間にわたって知立市、あま市、武豊町に研究委嘱し、通級による指導を生かした通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に対する支援・指導方法について研究してきました。

また、平成29年度からは、新たに西尾市に研究委嘱し、これまでの研究成果を踏まえ、さらに研究を深めてきました。

本指導事例集は、通級指導教室のある西尾市立福地南部小学校を発達障害等支援拠点校とし、２年間にわたって研究に取り組んだ成果です。

本指導事例集が県内全域で活用され、通常の学級担任や通級による指導担当教員をはじめ、全ての先生方の指導力向上の一助となることを願っています。

平成31年３月

愛知県教育委員会特別支援教育課

平成 29・30 年度 特別支援教育推進モデル事業研究展開図

・　個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。

・　すべての教員は、特別支援教育に関する一定の知識・技能を有していることが求められる。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」より

小・中学校における連続性のある「多様な学びの場」

通常の学級

障害に配慮し、指導内容・方法を工夫した学習活動を行う。

発達障害等の児童生徒が６．５％在籍
（文部科学省調査）

通級による指導

通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に、各教科などの授業は通常の学級で行い、障害の状態等に応じた「特別な指導」を週に数時間、「特別な指導の場」で行う。

特別支援学級

障害種ごとの少人数学級で、障害の状態等に応じたきめ細やかな配慮に基づいた特別な指導を行う。

連携　　**連携**

通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒への指導・支援の充実が喫緊の課題。

【特別支援教育モデル事業】通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に対する指導・支援の方法を研究する。

○　通級指導教室担当教員研修会
○　特別支援教育コーディネーター研修会
○　特別支援教育支援員研修会
○　特別支援教育指導員による巡回相談・助言
○　特別支援教育研修会
　「教室でできる特別支援教育のアイデア」
　「特別支援教育を推進させるために」等

発達障害等に係る研修の実施

○　通級による指導の入級・退級システムの作成
○　通級による指導担当教員と通常の学級担任との連携によるＰＤＣＡサイクルの構築
○　個別の教育支援計画等の作成
○　個別の教育支援計画等に基づく指導内容・方法の共有化

個に応じた指導の充実

平成２９・３０年度特別支援教育推進モデル事業「西尾市における指導事例集」の作成　　（案）

【実践事例集の一例】
○　児童生徒の実態
○　通級による指導・支援
○　通常の学級での実践

【市町における支援体制の一例】
○　個別の教育支援計画等に基づく実践
○　通級による指導担当教員と通常の学級担任との連携
○　通級に関わるシステム

通常の学級に在籍するすべての児童生徒に対する指導・支援の充実

平成 29・30 年度愛知県特別支援教育体制推進事業

特別支援教育推進モデル事業　発達障害等支援拠点校研究委嘱

通常の学級に在籍するすべての児童生徒に対する支援・指導の充実を目指して

平成 29・30 年度評価専門員　愛知教育大学　准教授　飯塚　一裕

平成 19 年から特別支援教育が始まって 10 年以上が経過しました。文部科学省が毎年公表している特別支援教育体制整備状況調査の結果によれば、全国の小中学校における特別支援教育の支援体制整備は着実に進んでいるようです。今後さらに支援体制を向上させていくために、本研究では、通常の学級に在籍する全ての児童生徒に対する支援・指導の充実を目指して、「発達障害等に係る研修の実施」及び「個に応じた指導の充実」という２点を柱とした実践が展開されました。

私は平成 29・30 年度評価専門員として２年間研究に関わらせていただきましたが、その中で感じたことについて述べたいと思います。

【通級指導教室における指導の充実】

通級指導教室で行われる自立活動について、通常の学級における課題と関連付けながら、指導を充実させていくことが重要です。

【通級指導教室と通常の学級の連携】

これまで、通級による指導に関する研究が数多く行われていますが、必ずと言っていいほど指摘されているのが、通級指導教室と通常の学級の「連携」における課題です。業務が多忙であるため、情報交換や情報共有のための十分な時間を確保することが困難といった話も聞かれますが、連携をいかに進めていくか、今後も検討が必要です。また、通級による指導で行ったことをどのように通常の学級で活用していけばよいか、さらに実践を積み重ねていくことが求められます。

【ユニバーサルデザインの授業】

障害のあるなしに関わらず、視覚化や共有化といった要素を含んだ、全ての児童生徒にとって分かりやすい授業が重要視されています。もちろん、障害のある児童生徒がいるからユニバーサルデザインの授業を取り入れるのではないことは言うまでもありません。

【教員の専門性の向上】

今後も、発達障害等の児童生徒を理解するための研修を進めていくことが重要です。本研究で作成された「西尾市における指導事例集」は、通級指導教室における指導のノウハウを通常の学級で実践した成果についてまとめたものです。すぐに現場で取り入れることができる実践が数多く掲載されており、ぜひとも多くの先生方に参考にしていただきたいと思います。もちろん、事例集を参考にした取組がうまくいかないこともあるでしょう。そのような場合、なぜうまくいかなかったのか考えていくことが必要です。それこそが児童生徒の理解を深めること、また教員の専門性の向上につながるのではないかと考えます。

障害のある児童生徒がクラスにいなくても、指導事例集で紹介した実践に取り組んだ方がよりよい教育効果につながると考えること、またそうした成果が積み重なっていくことが、インクルーシブ教育を進めていくことにつながるのではないでしょうか。特別支援教育の推進に本事業が果たす役割は、今後ますます大きくなっていくものと思われます。

西尾市における通常の学級に在籍する
発達障害等の児童生徒への支援・指導体制について
西尾市教育委員会

西尾市では、平成29・30年度の２年間、西尾市立福地南部小学校を発達障害等支援拠点校とし、通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に対する支援・指導について、以下の２点を重点にして通級による指導の指導方法の生かし方を研究してきた。さらに、その成果を市内の通級による指導担当教員及び小中学校の通常の学級担任等に広めることで、指導力のさらなる向上を図った。

・通級による指導担当教員のスキルアップ
・通級による指導担当教員と通常の学級担任との連携強化

平成30年度、西尾市では、小学校19校で通級による指導を行っている。設置校は小学校９校（情緒障害４、ＬＤ２、ＡＤＨＤ３）とし、残りの小学校10校は、巡回による指導として実施している。

一方で、通級による指導を行っていない児童の中にも、様々な困難を抱えている児童が各学校の通常の学級に多く在籍しているという現状があるため、本市では通常の学級担任の専門性の向上が重要だと考えた。そこで、通級による指導を通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に生かすことができるように、効果的な支援・指導についての研究を進めていくことにした。

１　通級による指導担当教員のスキルアップ

平成30年度西尾市就学支援委員会において、教育支援について検討した児童生徒は、188名（小学校136名、中学校52名）であった。学校現場では若い教職員の増加に伴い、発達障害等の児童生徒を理解するための研修が必要であると考え、以下のような取組を行った。

（１）通級指導教室担当者会の開催

市内の通級による指導担当教員９名、拠点校校長、拠点校担当教員、市特別支援教育アドバイザー、市担当指導主事で担当者会を実施した。

- 通級による指導の現状把握と指導方法についての情報交換
- 子どもの捉え方の視点やより効果的な指導方法など指導技術の向上研修
- 通級による指導担当教員と通常の学級担任との連携方法についての研修

（２）発達障害等の児童生徒への支援・指導方法を検討する授業研究会

拠点校において通級の授業研究を行った。拠点校全教職員、通級による指導担当教員（９名）、特別支援教育コーディネーター（希望参加）、市特別支援教育アドバイザー（２名）、市担当指導主事が参加し、自立活動についての指導のポイントや授業の構成や有効な指導方法について研究を進めた。

- 通級指導教室での支援・指導方法
- 通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒の捉え方

気持ちを表す言葉を仲間分けする授業

（３）特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援教育コーディネーターを対象として、通級による指導についてのポイントや通常の学級における発達障害等の児童生徒に対する支援についての研修を実施した。

（４）発達障害等講演会

県総合教育センター職員や市特別支援教育アドバイザーを講師に招き、幼稚園・保育所、小・中学校の教職員を対象にした発達障害等の児童生徒に対する理解を深めるための研修を実施した。

（５）市特別支援教育アドバイザーによる学校訪問

市特別支援教育アドバイザーが通級指導教室のある全ての学校を訪問し、個々の児童に対する指導方法や通常の学級との連携について指導した。

２　通級による指導担当教員と通常の学級担任との連携強化

通級指導教室が設置されている拠点校において、通常の学級で授業研究を行い、発達障害等の児童生徒への具体的な支援・指導について学ぶ機会とした。特別な支援を必要としている児童生徒に対して一人一人に寄り添った支援になるように、授業研究を通して具体的な支援の在り方を検討した。

（１）通級による指導を学ぶ授業研究会

本市は、半数以上の小学校（19 校／26 校）で通級による指導を行っているが、通級指導教室における専門的な指導方法を通常の学級担任が学ぶ機会を設定した。そこで、市特別支援教育アドバイザーを講師とし、「通級による指導とは」の演題で、以下のような通級による指導の基本的な概念等を学習する研修を行った。また、通級の授業を拠点校の全職員で参観し、指導方法を具体的に学んだ。

記録写真を手掛かりに日記を書く通級指導教室での授業

- 気持ちを言葉で表し伝える
- 怒りの感情を周囲に受け入れてもらえる伝え方を身につける
- 促音や拗音の混じった言葉が入った文章を正しく読んだり、書いたりする

本研修会を通して、通級による指導を担当者に任せるのではなく、校内で全教職員が適切に理解し、発達障害等の児童生徒の支援・指導に生かしていくことが重要であることがわかった。今後も通級による指導について、さらなる周知が必要である。

（２）通級による指導担当教員と通常の学級担任が連携した授業研究会

拠点校を中心に、通級による指導を通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒の支援・指導に生かす研究を進めてきた。通常の学級で通級による指導のノウハウを生かすことができる授業を公開し、研究を進めた。

ア　適切な声の大きさで話すことの必要性やその方法を理解するための支援・指導について

- 声のものさし（５段階）表、声のものさしを示す教材・教具の利用
- ペア・グループ内による声の出し方練習

イ　意欲はあるが、指示されたことや資料の語句の理解が困難であるため、学習に対する集中力が続かない児童に対する支援・指導について

- 時間の構造化（授業時間と学習内容の経過の理解）
- 情報伝達の工夫（学習内容の「見える化」）
- 内容の構造化（スモールステップの教材「おたすけワークシート」「ヒントカード」）
- パターン化（指示の流れを全体→個別とパターン化、言葉のパターン化「まず」「次に」「～から」）

声の大きさを視覚的に理解する通常の学級での授業

（３）指導事例集の作成

西尾市教育委員会では、通級による指導を生かした、通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に対する効果的な支援・指導事例集を作成した。

様々な支援・指導を継続して行ったことで、発達障害等の児童生徒たちが苦手意識を克服したり、集中力を継続させたりする姿が各学校より報告された。対象児童生徒の捉えを的確に行ったことで、一人一人に寄り添った効果的な支援・指導を行うことができた。

よい姿勢で、落ち着いて学習できるように

―「感覚統合運動」による支援を通して―（低学年）

周りからは、こんな子に見えます。

○まっすぐに姿勢を保って座っていることが苦手です。席を立って歩き回るので、友達の迷惑になることもあります。

実は、こんな子たちです。

○感覚機能を調節する能力が弱いため、安定した姿勢を保つことが難しいです。また、平衡感覚が鈍く、常に体が不安定な状態になっているため、自ら動くことで調整しようとしているのです。

どんな支援ができるかな。

●通級指導教室では、こんな支援をしています。（１年生）

感覚統合運動（感覚機能の調節能力を高める運動）で体つくりをしよう。

○姿勢チェックをする。

・姿勢が崩れた時に「ピン、ピタ、グー、ギュ」の合図をする。
・合図に合わせて、背筋、足裏、机の位置を確認させる。

「ギュ」の時に背中で手を組むと、背筋が伸びておなかに力が入るね。

＜10 回ぐるぐる回すよ＞

○ボール遊びをする。
・ボールをおなかの周りに沿って回す。（左回り、右回り）
・サイズの違う三つのボールを、距離の異なる的に入れる。

強く投げると飛び出してしまうね。
ボールがかごに上手に入るようになってきたよ。

どんどん上手になるね。すごいですね。

◎成果

・自分の姿勢が崩れていたことに気づき、よい姿勢に直したことを褒められることによって、多くのことに自信をもって取り組むことができるようになってきた。
・運動で感覚機能を鍛えることで、まっすぐに体を保てるようになり、長時間席に座って授業を受けられるようになってきた。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による支援のノウハウを生かして

手立て①

授業の節目で、「ピン、ピタ、グー、ギュ」を合図に、よい姿勢をとらせる。（背筋を伸ばし、おなかに力が入る感じを体感させる。）

手立て②

体育の準備運動として、感覚統合運動を取り入れた体つくりを行う。

●通常の学級（１年生）で取り組みました。

姿勢チェックをしよう。

・担任が話をする前に「ピン、ピタ、グー、ギュ」で姿勢をチェックする。
・「ギュ」では、両手を椅子の後ろで組み、椅子の背もたれに背中をつけ、背筋を伸ばしておなかに力を入れる。

「ピン、ピタ、グー、ギュ」をやると背筋が伸びて気持ちがいいね。

＜姿勢チェックをする児童＞

ボールを使って準備運動をしよう。

・ボールをおなかの周りでぐるぐる回す。
・二人で横に並び、ボールを手と手で押し合ってはさみ、ゴールまで運ぶ。
・背中合わせでボールをはさみ、ゴールまで運ぶ。

ボールを落とさないようにする力の加減が分かってきたよ。

＜背中合わせでボールを運ぼう＞

◎成果

・基本姿勢を意識させ、できたら褒めることで、背筋を伸ばし、よい姿勢で話を聞くことができるようになってきた。
・ペア活動にすることで、楽しく、意欲的に取り組めた。この活動により、バランスをとる感覚や友達との適切な距離感をつかむことができた。

◎ポイント

・教師が話をする前に「ピン、ピタ、グー、ギュ」と合図をすることで、背筋を伸ばして、安定した姿勢を継続することができ、落ち着いて学習に取り組むことができるようになる。
・ボール運び運動を準備運動として取り入れることによって、楽しみながら、自然に感覚機能、平衡感覚を鍛えていくことができる。

指を使った計算が速く正しくできるように

―「グッパー運動」による支援を通して―（低学年）

周りからは、こんな子に見えます。

○算数の計算問題になると、学習意欲が薄れ、おしゃべりや授業に関係ないことを始めます。そのため、時間内に課題を終えることができません。

実は、こんな子たちです。

○算数の計算が苦手で、指を使って計算していますが、指の曲げ伸ばしが苦手なので時間がかかります。そのため、面倒と感じることが多く、学習意欲を保つことが困難です。

どんな支援ができるかな。

●通級指導教室では、こんな支援をしています。（２年生）

「グッパー運動」をしよう。

＜「グッパー運動」の様子＞

○両手とも同じ動きで指の曲げ伸ばしをする。

・初めは指導者がリズムをとり、グッパーの速さを調整する。

・指を使って、数を数える。

○両手を使って数える。

・指を伸ばして数を表す。（たし算に有効）

①グーの形から順番に指を伸ばし、１から５まで表す。さらに、言われた数字を一度で出すことができるようにする。

②６以上を数える場合は、片手を開き、５から数える。

＜８を数える＞

「５、６、７、８」って数えると楽だね。

・指を曲げて表す。（ひき算に有効）

①パーの形から順番に指を曲げ、曲げた数で１から５まで表す。さらに、数の分だけ指を一度で曲げることができるようにする。

②６以上を数える場合は、片手を握り、５から順に数えるようにする。

わたしは、ひき算が得意だよ。

◎成果

・指がスムーズに動くようになったことで、正しく計算ができ、スピードも速くなった。

・算数の計算に対する苦手意識が軽減されたため、意欲をもって最後まで練習問題に取り組むことができるようになった。

たし算が速くなった。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による指導のノウハウを生かして

手立て

計算の正答率とスピードを上げるために、算数の授業開始前に「グッパー運動」を行い、計算に役立てる。

●通常の学級（１年生）で取り組みました。

「グッパー運動」をしよう。

・全員で１から 50 まで数唱しながら、グッパー運動をする。

グッパー運動は簡単だよ。みんなと同じ速さでできて、楽しいな。

・グーの形から指を伸ばして、１から 10 まで表す。６以上を数える場合は、片手を開き、５から数える。

＜「グッパー運動」をやってみよう＞

１本ずつ指を出していたときより、速く「８」が出せるようになったよ。

・パーの形から指を曲げて、１から 10 まで表す。６以上を数える場合は、片手を握り、５からスタートする。

５をひくときは、片手を握ればよいことに気づいたね。

＜５より大きい数をひく児童＞

指を使って、10 までのひき算をしよう。

・指を使って、10 までのひき算に取り組んだ。５より大きい数を表すときや５より大きい数をひくときに素早くできるよう、繰り返し練習した。

◎成果

・５分間で 10 問しか取り組めなかった児童が、「グッパー運動」を１か月間続けた結果、16 問に取り組み全問正解できた。「ひき算、できるよ」と自信をもって口にするようになった。

◎ポイント

・「グッパー運動」をすることで、正確に計算できるようになる。また、数を素早く指で表せるようになり、たし算、ひき算の計算スピードが増す。

・正答率が上がり、計算スピードが増すことにより、算数に対する苦手意識が軽減され、学習意欲を高めることができるようになる。

集中して作業を進めることができるように

―「後出しじゃんけん」を使った支援を通して―（低学年）

周りからは、こんな子に見えます。

○連絡黒板の文字を連絡帳に写すとき、他の子の様子を見たり、ぼんやりしたりして、時間内に書き終われません。

実は、こんな子たちです。

○黒板に書かれた文字など、離れたものを見るときに、どこを見ればよいかがよくわからないため、黒板の文字をノートに写す作業が苦手です。
また、注視できないので、集中して作業を進められません。

どんな支援ができるかな。

●通級指導教室では、こんな支援をしています。（２年生）

注視することに慣れ、集中して作業に取り組もう。

○「後出しじゃんけん」をする。
・教師とじゃんけんをする。教師の出したものをきちんと見る。
・言葉で教師のグーチョキパーを確認してから、教師に負けるように出す。

先生がグーだから、ぼくはチョキを出せばいいんだね。

＜先生のグーチョキパーをよく見てね＞

○ビジョントレーニングを行う。
・カウントに従って、教師が指した方に目を動かす練習をする。

先生が指したところを見るよ。

＜ビジョントレーニング内容＞
・上、下、右、左、右上、右下、左上、左下を各 10 秒
・親指のピント合わせ 15 秒
・眼球運動（跳躍性）交互に２秒　等

＜目だけを動かすよ＞

◎成果
・「後出しじゃんけん」では、はじめは戸惑っていたが、教師の出すグーチョキパーをじっと見て考え、負けるじゃんけんをすぐに出せるようになった。
・教師が指さしたところをすぐに見て、早く活動に取りかかれるようになってきた。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による指導のノウハウを生かして

手立て

集中力を高めるために、学級全体で「後出しじゃんけん」を行う。

●通常の学級（２年生）で取り組みました。

「後出しじゃんけん」で目・脳・手を鍛えよう。

先生が出すグーチョキパーをよく見てね。

・学級全体で、「後出しじゃんけん」をする。教師の出すじゃんけんを注視する。
・どれを出せば負けられるかを瞬時に考えて、素早く負けるじゃんけんを出す。
・教師に負けるじゃんけんが出せなかった児童は座る。
・自分と友達の結果や自分の前回の結果と比べて、成果について考える。

＜学級全体で「後出しじゃんけん」をする＞

相手のじゃんけんをしっかり見るわ。

今度はぼくのじゃんけんに負けてね。

・慣れてきたら児童が前に立ったり、勝ち負けを逆にしたりするなど、「後出しじゃんけん」のやり方に変化をもたせる。

＜児童が前に立ち「後出しじゃんけん」をする＞

やったあ。負けるじゃんけんがすぐに出せたよ。

今日は最後まで残れた。前に比べると相手のじゃんけんをよく見られるようになったよ。

◎成果

・「後出しじゃんけん」をすることで、集中して考えることができるようになり、素早く活動することができた。
・多動傾向の児童が、集中して文字を書いたり、話を聞いたりすることができるようになった。

◎ポイント

・「後出しじゃんけん」で、相手が出すものを集中して見たり、考えたりする活動を繰り返し行うことで、集中して作業を進めることができるようになる。

自分の気持ちをうまく表現することができるように

―「困ったカード（顔マーク）」を使った支援を通して―（中学年）

周りからは、こんな子に見えます。

○授業で課題に取り組む場面や友達とのトラブルが起きた場面で、大声で泣き出します。理由を聞かれても、それには答えられず泣いています。

実は、こんな子たちです。

○わからないことや自分の気持ちなどを相手に言葉でうまく説明することが苦手です。

どんな支援ができるかな。

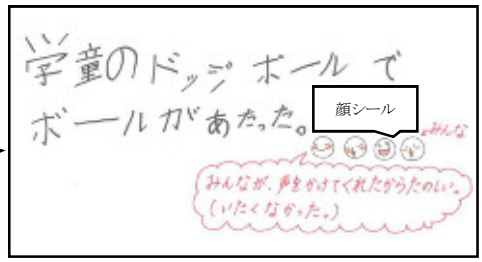
●通級指導教室では、こんな支援をしています。（３年生）

自分の気持ちの表し方を考えよう。（「困ったカード（顔マーク）」を使って）

○顔マークや顔シールを使って、自分の気持ちを話したり、書いたりする。

ぼくは、にこにこ顔。楽しかったよ。

ぼくのシールはにこにこ。みんなもにこにこだよ。

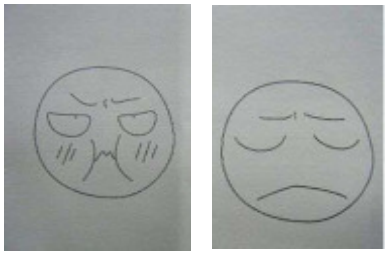


＜顔マークや顔シールを貼った児童Ａのノート＞

○「困ったカード」を使い、自分の気持ちを伝える練習をする。

・「困ったカード」を見せて、教師に気持ちを伝える。

・「困ったカード」の裏面の話型を使って、どこがわからないのか自分の言葉で伝える。



＜「困ったカード」＞

わからない時は、怒ったり、泣いたりしないで、先生に言えばいいんだね。

困った時はカードを出せば、気持ちが伝わるよ。

◎成果

・顔マークや顔シールを使い、その意味を話すようにしたことで、自分の気持ちを周囲に伝えられるようになった。

・怒って泣くこともあるが、教師に気持ちを伝えようとする姿が見られるようになった。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による指導のノウハウを生かして

手立て①

困っていることがなかなか言えないときに「困ったカード」を活用し、自分の気持ちを伝えやすくする。

手立て②

困ったときに、どのように伝えるかを「困ったカード」の裏面に記すことで、話し方のスキルを知り、自分の気持ちを伝えやすくする。

●通常の学級（３年生）で取り組みました。

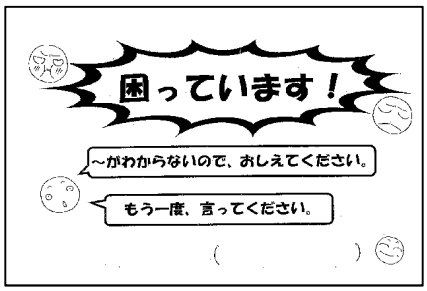
「困ったカード」を使おう。

・授業中に、「困ったカード」を使って、困ったことを伝える。
・教師に、何に困っているのかを伝える。伝え方がわからない場合は、カードの話型を見て話す。

＜「困ったカード」を使う児童＞

「W」の発音がわからないので、教えてください。

先生のところに行ったり、声を出して呼んだりするのは苦手だけど、カードを使えば先生に伝えられるよ。



＜「困ったカード」の話型＞

苦手意識をもっていた子も、周りの子が「困ったカード」を挙げ、教師からアドバイスを受けている様子を見て、外国語活動の時間に「困ったカード」を挙げ、外国語指導員に助けを求めることができた。

算数科の問題に取りかかるのが遅れてしまった児童は、カードを出してどの問題を解いたらよいのかを尋ね、自分のペースで取り組むことができた。

◎成果

・「困ったカード」を使うことで、これまで恥ずかしくて質問できなかった児童が、自分から助けを求めるようになった。「困ったカード」を使わなくても、教師に言葉で伝えられる子も増えてきた。
・自信のないときにもカードを挙げ、アドバイスを受けながら、自分の力で問題を解ける場面が増えた。

◎ポイント

・子どもたちの実態に合わせて、困ったときに助けを求めたり、自信がなくて話せなかったりしたときに使うなど、その子に応じた活用をすると、自分の気持ちをうまく表現することができるようになる。
・一人だけ「困ったカード」を持っていると抵抗を感じるが、クラス全員で取り組むことで抵抗なく行うことができるようになる。

手本を正確に写せるように

―「三和トレ」の点つなぎシートを使った支援を通して―（中学年）

※「三和トレ」…西尾市立三和小学校で、様々な課題をもつ児童のために使用している学習シート

周りからこんな子に見えます。

○漢字の学習のときに、マスの中に字形を整えて書くことや正しく写すことが苦手です。書くことを途中であきらめてしまうことがあります。

実は、こんな子たちです。

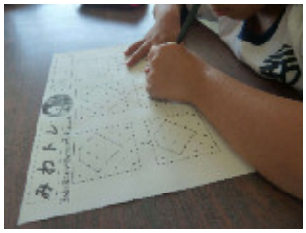
○目と手の協応動作がうまくいかないため、漢字を正しく書くことが苦手です。

どんな支援ができるかな。

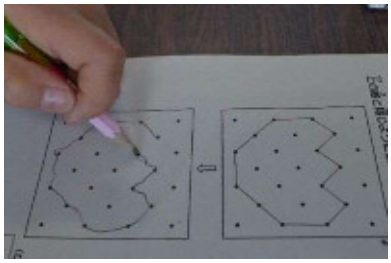
●通級指導教室では、こんな支援をしています。（３年生）

点と点をフリーハンドで、丁寧につなごう。

○「三和トレ」の点つなぎシートで、点つなぎを行う。



お手本みたいに、きれいな形を描きたいな。



＜「三和トレ」の点つなぎシート＞

○手本をよく見て、点と点をつなぐ。
・点の位置がずれていないか確認する。
・線の形を間違えないように、直線や曲線に気をつけて描く。

斜めの線が階段みたいにぎざぎざになってしまったので、次は気をつけて描きたいな。

手本と同じように描けるようになってきましたね。

◎成果

・手本をよく見て、漢字の一画ずつのバランスや点の向き、位置などを意識し、正しく書けるようになってきた。
・今まで、途中であきらめていたノートへの視写も、自分で間違いを修正しながら、最後まで取り組むようになってきた。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による指導のノウハウを生かして

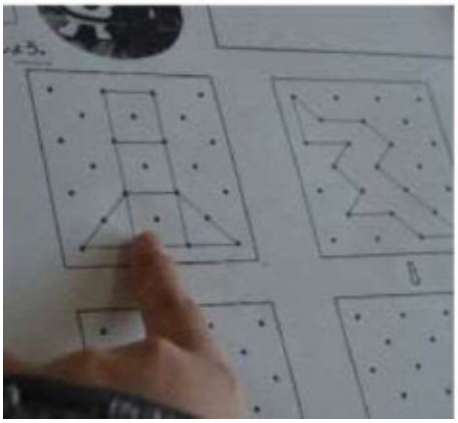
手立て

自信をもたせるために、「三和トレ」の点つなぎシートの難易度を無理なく上げていく。

● **通常の学級（３年生）で取り組みました。**

「三和トレ」の点つなぎシートを練習しよう。

・手本をよく見て、「三和トレ」の点つなぎシートに取り組む。
・どのような順序で線を引くか、指でなぞってみる。
・斜めの線や曲がるところに気をつけて、ゆっくり書く。
・活動を終えた感想を書く。

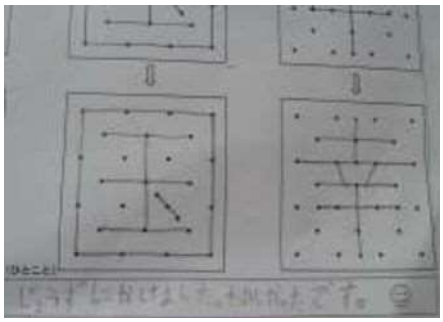


＜点つなぎシートを指でなぞる児童＞

「三和トレ」の点つなぎシートで、授業で習った漢字を写してみよう。

漢字の点つなぎシートも、手本と同じように上手に書けたよ。

手本の線の向きや長さに気をつけて、きれいに書けました。



＜漢字の点つなぎシート＞

◎ **成果**

・点つなぎシートの難易度を無理なく上げていくことで、「次は、線の場所を間違えないように書きたい。」など、意欲的な感想を書くことができるようになった。その経験が漢字の学習に生かされ、「倍」の「口」を「日」と書いたり、「鉄」の「失」を「矢」と書いたりする間違いが減ってきた。また、「国」の「口」と「玉」のバランスにも気をつけて書くようになった。

◎ **ポイント**

・点つなぎシートに繰り返し取り組むことで、手本の細部までよく見て漢字を書くことができるようになる。

具体物を使って、楽しく学習ができるように

―視覚支援を生かした小数の学習を通して―（中学年）

周りからは、こんな子に見えます。

○教師や友達が声をかけても、「めんどう」と答え、学習意欲が乏しい子に見えます。授業中、学習に関係のないことを友達に話してしまいます。

実は、こんな子たちです。

○言葉による説明を理解することが苦手です。でも、友達と仲良く学習したいと思っています。

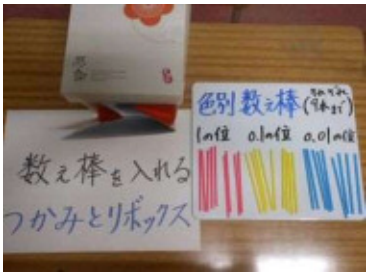
どんな支援ができるかな。

●通級指導教室では、こんな支援をしています。（４年生）

数え棒を使って、量感をつかもう。

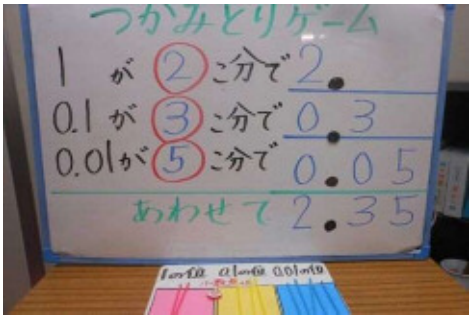
○「つかみとりゲーム」をする。

・色別数え棒を色別位取りカードの上に並べる。



数え棒を色別位取りカードに並べると、位がわかりやすいよ。

・話型にそって答える。

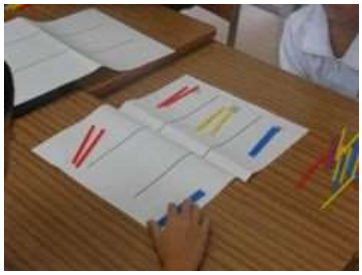


【つかみとりゲームの手順】

1　＜準備＞色別数え棒を箱の中に入れる。数え棒は９本以下にする。

2　自分で、つかみとりボックスの中の数え棒を取る。
　赤棒は１の位、黄棒は0.１の位、青棒は0.01の位で、それぞれの色カードの上に置く。

3　話型にそって答える。
・１が２個分で２
・0.１が３個分で0.3
・0.01が５個分で0.05
・合わせて2.35



＜数え棒を色別位取りカードの上に置く様子＞

◎成果

・色別数え棒と色別位取りカードを合わせることで、位を理解することができた。
・話型を使って話すことで、解答を正しく伝えられる自信がつき、学習意欲が高まった。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による指導のノウハウを生かして

手立て①

視覚的に理解できるようにするために、小数の導入で具体物を使う。

手立て②

学習に集中し、楽しく学習するためにゲーム形式を取り入れ、互いにわかったことを説明し合う。

●通常の学級（４年生）で取り組みました。

１ｍの紙テープで長さを計ろう。(視覚と量感)

・１ｍの紙テープという具体物を印の場所で切ることにより、視覚的に 0.01ｍという小数を感じ取る。
・友達と一緒に、紙テープを切る活動を通して、楽しく学習に取り組む。

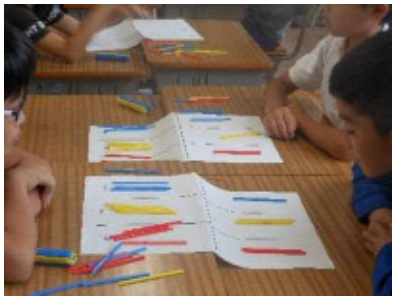
＜友達と一緒に紙テープを切る児童＞

どんどん 10 個に分けていけば、もっと細かい長さまで測ることができるようになるね。

実際に切ってみて、どんな大きさになっていくのかわかったよ。

ゲーム形式でやってみよう。

数え棒を３種類用意して、赤は１点、黄色は 0.1 点、青は 0.01 点とし、相手がつかんだ数え棒を赤、黄、青に分け、何点になるか説明するゲームを行った。



＜友達とゲームをする様子＞

ゲーム形式の小数の学習を友達と一緒にすると楽しいね。

◎成果

・具体物を使うことで、視覚的に理解しやすくなった。また、ゲームを取り入れることで友達と楽しみながら説明し合うこともでき、集中力を保って学習に取り組むことができるようになった。

◎ポイント

・具体物を使って視覚的に支援することで、学習内容を理解するようになる。
・ゲーム形式の学習に取り組むことで、友達と一緒に意欲的に授業に参加できるようになる。

文章の読み取りが楽しくできるように

―「にこにこメソッド（文章の読み取りのパターン学習）」を使った支援を通して―（低学年）

周りからは、こんな子に見えます。

○授業とは関係ない教科書のページをよく眺めています。音読の時間になると、教科書を閉じて、机に顔を伏せてしまいます。声をかけても、じっと黙ってしまいます。

実は、こんな子たちです。

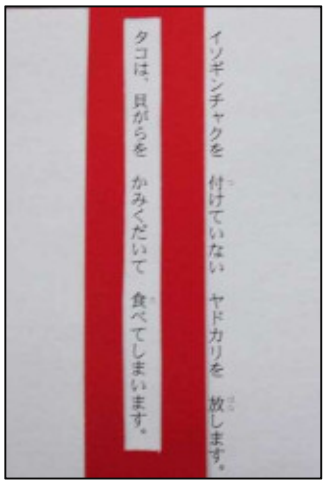
○気になるものを見つけると、そこに注目してしまいます。また、文字を目で追っていくのが苦手です。
思ったことを動きや表情で伝えます。

どんな支援ができるかな。

●通級指導教室では、こんな指導をしています。（４年生）

「にこにこメソッド」で、楽しく文章を読み取ろう。

○「にこにこメソッド」に取り組む。
・メソッド①　リーディングトラッカーを使って読む。
・わかち書きの文章が書かれたワークシートにリーディングトラッカーを使い、視覚範囲を一文ずつに制限して読みやすくする。
・教師と一緒に、「誰が」「何を」「どうした」を文から探しながら、文に書かれた情景を想像する。



＜リーディングトラッカーの利用＞

文を読むことだけに、集中できたよ。先生と文の内容を少しずつ確認することで様子が目に浮かんだよ。

・メソッド②　動作化をして、読み取りを深める。

読み取ったことを楽しく動作化できたね。

＜タコになって動作化する児童＞

◎成果

・リーディングトラッカーを使って一文ずつ読むことで、長い文章でも内容を理解できるようになってきた。
・「かみくだく」は「かんでくだくんだよ」と言って、顎を動かして、「かむ」と「かみくだく」の違いを表現することができた。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による指導のノウハウを生かして

手立て①

リーディングトラッカーを使って、文章から内容を読み取る。

手立て②

言葉から想像した登場人物の様子を動作化することで、文章の読み取りを深める。

●通常の学級（２年生）で取り組みました。

にこにこメソッド①　リーディングトラッカーで読もう。

・いろいろな幅のリーディングトラッカーを使って、文を読んでみる。使った方が読みやすいと感じた場合は、次の授業からも使うようにする。
・教師の範読やクラスでリレー読みをするときに、自分でリーディングトラッカーを動かし、文字を目で追って文章を読む。

＜リーディングトラッカーを動かして読む＞

リーディングトラッカーを使うと読んでいるところがよくわかるよ。

友達が読んでいるところがわかりやすいな。

にこにこメソッド②　物語の言葉を動作化しよう。

・登場人物の気持ちの変化が表れている言葉を探し、意味を考える。
・言葉から想像した登場人物の様子を動作化することで、読み取りを深める。

＜言葉を探す＞＜「ぎゅうっと」を動作化＞

◎成果

・リーディングトラッカーを使うことで、集中して文章を読むことができた。
・帽子をぎゅうっとかぶったのは「風でとばないようにするため」と話していたが、動作化を通して、「お母さんが作ってくれた大切なものだから」と読み取りを深めることができた。

◎ポイント

・リーディングトラッカーを使用することで、友達や教師が読んでいる文章を目で追うことができる。視覚範囲を制限することで、他の部分に気をとられることなく、集中して読むことができるようになる。
・読み取った内容について、登場人物の様子を想像して動作化することで、言葉で表現することが苦手でも、楽しく読み取りを深めることができるようになる。

怒りの気持ちをコントロールできるように

―「気持ちの温怒計」を使った支援を通して―（高学年）

周りからは、こんな子に見えます。

○納得できないことがあると、急に怒り出して、相手をたたいてしまうことがあります。理由を聞かれても、ふてくされた態度で、じっと黙ってしまいます。

実は、こんな子たちです。

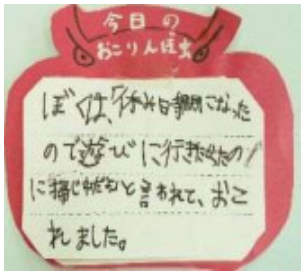
○怒りを抑えることが苦手です。また、怒りを抑えられないことに、自分でも困っています。

どんな支援ができるかな。

●通級指導教室では、こんな支援をしています。（５年生）

怒りの強さの程度を知り、感情のコントロールの仕方を考えよう。(気持ちの温怒計)

○イライラしたことを「おこりんぼ虫」に書く。



チャイムが鳴ったので、遊びに行こうと思ったら、友達に「まだ掃除中だよ」と言われて怒れた。

＜このおこりんぼ虫は、80 度ぐらいだ＞

○「気持ちの温怒計」に怒りの程度を数値化した「おこりんぼ虫」を貼る。

・怒りの程度が低い場合、
　自分でコントロールする方法を考える。
　→例：教室の外で深呼吸を３回やってみる。

・怒りの程度が高い場合、
　自分を主語にした言葉を使って教師に気持ちを伝える。

ぼくは、チャイムが鳴ったから、掃除を終わってもいいと思ったんだよ。

そうだったんだね。でもごみをきちんと取ってから終われるといいね。

◎成果

・教室でも自分から深呼吸を行っている。
・相手に手を出すことが減り、教師に気持ちを話すことができるようになってきた。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による指導のノウハウを生かして

手立て①

相手の気持ちを考えるために、自分の怒りの度合いを「気持ちの温怒計」に表すとともに、人によって怒りの度合いは違うことを知る。

手立て②

怒りの度合いによって、気持ちを収める方法を考える。

●通常の学級（５年生）で取り組みました。

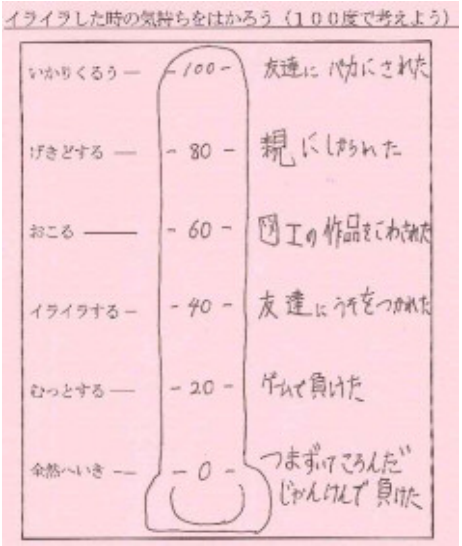
友達と「気持ちの温怒計」を比較しよう。

・６段階の怒りの度合いについて、自分ではどんな場面があてはまるか「気持ちの温怒計」に書き込む。
・友達と自分が書いた内容を比べて、怒りの度合いの違いを考える。

＜「気持ちの温怒計」を使った通常の学級の担任の授業＞

みんなは、私よりもイライラ度が低いからびっくりした。私はすぐに怒ってしまうタイプだわ。

普段は穏やかに見えるけど、怒ることもあるんだね。意外な感じがした。



＜「気持ちの温怒計」ワークシート＞

怒ってしまったらどうする？

通級指導教室に通っているＡさんが実践している、
「ゆっくり深呼吸」を参考にして、
「心の中で 10 数える。」
「窓の外の景色を見渡してみる。」
など、自分に合ったクールダウンの方法を考えた。
気持ちを落ち着けてから、言葉で伝えるようにした。

◎成果

・「気持ちの温怒計」を見合う中で、誰もがイライラ度が高い「人をバカにする」ことは、絶対にしないことをクラスの約束とした。自分でクールダウンする方法を考えることで、気持ちがすっきりし、落ち着いて言葉で伝えられるようになった。

◎ポイント

・自分に合ったクールダウンの方法を考え、実践することで、自分で怒りの気持ちをコントロールすることができるようになる。
・「気持ちの温怒計」を使って、イライラ度を「見える化」し、人によって怒りの度合いが違うことを知ることで、相手の気持ちを考えた言葉がけや関わり方を意識できるようになる。

友達とのかかわりをもてるように

―グループエンカウンター（質問ゲーム）を活用した支援を通して―（高学年）

周りからは、こんな子に見えます。

○発語が少なく、いつも硬い表情です。コミュニケーションをとることが苦手で、何もしない子に見えます。周囲の子が指示をすれば、それに従って動くことができます。

実は、こんな子たちです。

○自分の考えや意見をもっていますが、上手に伝えることへの不安や緊張が大きく、思いを言葉にすることができません。本当は、友達と仲良く会話したいと思っています。

どんな支援ができるかな。

●通級指導教室では、こんな支援をしています。（２年生）

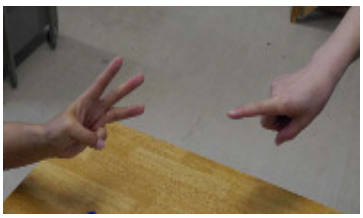
※人とのかかわりを学ぶために、本時は複数で実施。

グループエンカウンター（質問ゲーム）を通して友達と仲良くなろう。

○質問ゲームをする。

・０から 10 の質問を書いた「質問シート」を用意する。
・初めの人を決める。
・じゃんけんの要領で、０から５までの好きな数を片手で出し、互いに出した数を足す。

＜話す順番がわかるね＞



＜足して４だね＞

・初めの人が足した数と同じ番号の質問を隣の子にする。
・質問された子は答える。
・質問した人は、「どうしてですか。」と理由を質問する。
・答えたら質問する人と答える人を交代する。

話したいけど、いつ何を話したらいいかわからなくて…。

話す内容やタイミングがわかれば、話ができるね。

◎成果

・授業で解答が決まった質問なら、挙手をして発言できるようになってきた。
・友達の呼びかけに返事をして一緒に遊びに行く姿が見られるようになってきた。

通常の学級で生かしてみよう。

通級による支援のノウハウを生かして

手立て①

質問ゲームを通して、他の子とかかわることができるようにする。

手立て②

不安、緊張を緩和したかかわりをもてるように、「質問タイム」をもつ。そこで、質問ゲームで出た内容をもとにして、自由に話す時間を設ける。

●通常の学級（６年生）で取り組みました。

質問ゲームをしよう。

・２～４人のグループを作り、質問ゲームを行う。

・残り５分になったら、「質問タイム」とし、質問ゲームで出た内容について自由に話し合う。

＜「ええっ」友達の意外な一面を発見＞

リードしてくれる仲間がいるから、話しやすいな。

君の番だよ。

自分のことだから、自信をもって答えられるわよ。

友達のこと、いろいろ知っていると思っていたけれど、こんなことを考えていたんだ。

普段はあまり話さない友達とも会話することができた。全員参加で、みんなのことを知ることができてよかったな。みんなともっと仲良くできそう。

☆☆　質問シート　☆☆

合計	質　問
0	好きな食べ物は何ですか。
1・11	好きなテレビ番組は何ですか。
2・12	将来の夢を教えてください。
3・13	この学校の良いところを言ってください。
4・14	行ってみたい国はどこですか。
5・15	生まれ変わるとしたら、男？女？どちらがいいですか。
6・16	宝くじで 100 万円当たったら何に使いますか。
7・17	有名人に会えるとしたら、だれに会いたいですか。
8・18	今、一番欲しいものは何ですか。
9・19	もし、ドラえもんがいたら何をお願いしますか。
10・20	給食で一番好きなメニューは何ですか。

◎成果

・自分の言葉で会話することができた。仲間と自然な笑顔で活動する姿が見られた。

・友達のことをもっとよく知ることができたと実感がもてた。

◎ポイント

・質問する順番や内容、進行のルールが決まっていることがわかる質問ゲームを授業に取り入れることで、自信をもって話したり、不安や緊張を緩和したりすることができるようになる。

・自分の思いを表現できることで、友達とのかかわりに自信をもてるようになる。

参考資料

平成 29・30 年度特別支援教育体制推進事業

特別支援教育推進モデル事業　発達障害等支援拠点校研究委嘱　実施要綱

平成２９年４月
愛知県教育委員会特別支援教育課

１　目的

通級指導教室のある小学校１校を発達障害等支援拠点校として、通級による指導を生かすなどし、通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒に対する支援・指導方法について研究する。さらに、その成果を各市町村の通級による指導担当教員及び通常の学級担任等に広めることで、指導力のさらなる向上を図る。

２　実施内容

（１）支援・指導方法の研究
・通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒への指導事例集の作成
（本課 Web ページへアップ　研修会等で活用）
（２）通級による指導担当教員と通常の学級担任等との連携体制の構築
（３）県が主催する研修との連携
・発達障害児等基礎理解推進研修　　・通級による指導担当教員スキルアップ研修

３　発達障害等支援拠点校等における支援・指導方法の検証

（１）評価専門員の設置
学識経験者１名及び愛知県教育委員会職員１名を「評価専門員」として設置し、支援拠点校等における通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒への支援・指導方法等についての外部評価を行う。
（２）評価専門員の外部評価について
①　通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒への支援・指導方法等（事例）に対する評価
②　通級指導教室のカリキュラム及び児童生徒の「個別の指導計画」等、個人の記録に対する評価
③　通級による指導担当教員と通常の学級担任等との連携体制に関する評価
＊　評価専門員は年間２回拠点校を訪問する他、必要に応じて指導助言等を行う。

４　研究委嘱期間

平成２９年度～平成３０年度

５　研究委嘱市（１市）

西尾市に２年間委嘱する。

６　検討委員会

（１）検討委員会について
学識経験者を委員長として、支援拠点校を中心に通常の学級に在籍する発達障害等の児童生徒への支援・指導方法について年間２回程度協議する。

（２）検討委員
・評価専門員　２名
（学識経験者１名、特別支援教育課１名）
・関係市町村教育委員会担当者　１名
・支援拠点校職員　１名
・支援拠点地区代表校長　１名
・特別支援教育課　４名

検討委員名簿

＜平成 29 年度検討委員＞

氏名	所属等
飯塚　一裕	愛知教育大学（准教授）
横地　公保	西尾市教育委員会（指導主事）
半田　憲生	西尾市立福地南部小学校（校長）
榊原　浩子	西尾市立福地南部小学校（教諭）

＜平成 30 年度検討委員＞

氏名	所属等
飯塚　一裕	愛知教育大学（准教授）
浅岡　秀雄	西尾市教育委員会（指導主事）
半田　憲生	西尾市立福地南部小学校（校長）
榊原　浩子	西尾市立福地南部小学校（教諭）

（事務局を除く委員のみ、敬称略）